

風評の影響の払拭に向けた取組について

令和7年4月
環境省



1. 風評影響を最大限抑制するための海域のモニタリング

専門家による確認・助言を得ながら、**客観性・透明性・信頼性**の高い海域モニタリングを継続実施し、**風評影響の抑制**を目指す。

(1) 海域モニタリングの実施

① 定期的な海域モニタリングの実施と

海域環境の監視測定タスクフォースの開催(2025年2月27日)

- ・ 処理水放出開始後1年間の評価結果を共有
「人や環境に影響を及ぼすレベルでない」

② IAEAの枠組みの下でのモニタリング

- ・ 分析機関間比較 (ILC)
- ・ 日中の共通認識を踏まえた追加的モニタリング
(2024年度2回実施) (韓国・スイス・中国参加)



1F近傍海域での海域モニタリング

(2025年2月19日、

グロッシー事務局長と第三国専門家)



浅尾環境大臣と
グロッシー事務局長対話

③ 環境大臣とグロッシー事務局長との直接対話

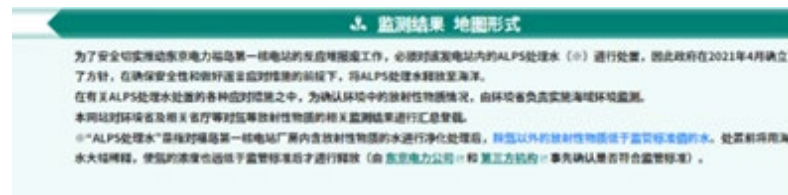
(2025年2月20日)

- ・ 日本のモニタリングの包括的なアプローチについて評価
- ・ 継続的な協力関係の構築

(2) 今後の取組の継続に向けて

① 専門的かつ客観的な立場にあるIAEAによる
国際的なレビューや専門家等の意見を踏まえ、
効果的なモニタリングを継続

② 最新の結果をウェブサイト(日・英・中・韓)や
SNSで随時発信



有关氚的指标值和环境中的氚浓度范围

氚(又称超重氢)是氢的同位素。从宇宙射线到地球上的核反应(宇宙射线)与空气中的氘和氧结合,每天都会产生新的氚并存在于地球的各个角落。不仅存在于空气中的水蒸气、雨水、海水和地表水中,甚至存在于我们的身体里也有微量。

国内外有关氚的指标值

WHO的饮用水标准	东京电力ALPS处理水排放标准	有关核水的国家安全标准
10,000 Bq/L	1,500 Bq/L	60,000 Bq/L
参考: ICRP 111 (2013)	参考: ICRP 111 (2013)	参考: ICRP 111 (2013)

2. 風評払拭に向けた情報発信について

福島第一原子力発電所事故における公衆の健康影響

放射線による健康影響を心配している方がいる。しかし実際は、

急性障害

数週間以内に症状が出る

放射線被ばくに帰因して生じ得た急性の健康影響が報告されていない

国連科学委員会2020年/2021年報告書

➡ 福島第一原子力発電所事故後、
急性障害は全く観測されませんでした。

胎児発生障害

早産、低出産体重、先天性異常の頻度は、原発事故による影響を受けず、日本全体で観察された頻度と同様

国連科学委員会2020年/2021年報告書、福島県「県民健康調査」（妊産婦に関する調査）

➡ 福島県での先天的な異常等の発生は、
全国調査と差はありません。

遺伝的障害

通常の遺伝性疾患の
発生頻度の増加

放射線被ばくが直接の原因となるような将来的な健康影響は見られ
そうにない

国連科学委員会2020年/2021年報告書

➡ ヒトでは放射線による遺伝影響は認められていません。

2. 風評払拭に向けた情報発信について

放射線の健康影響に関する風評払拭のために取り組むべき措置

- 「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」の活用
→「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」を活用し、国内外へ科学的知見等の発信を行う。
- 放射線に係るリスクコミュニケーションの場の活用・正確な情報発信
→放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターを活用した放射線不安への対応だけでなく、リスクミ・情報発信の機会を通じて、放射線の健康影響への風評払拭に対応する。

具体的な風評対策の取組

- 放射線の基礎知識と健康影響に関する科学的な知見や関係省庁の取組について収集整理した統一的な基礎資料を作成し、毎年度改訂。

◆上巻では放射線の基礎知識と健康影響、下巻では省庁等の取組を横断的に掲載。

- 令和6年度は、統一的な基礎資料の日本語版・英語版にALPS処理水に係る海域モニタリングに関する記載の追加や最新の国際機関の動向・科学的知見を基にした改訂を実施。



統一的な基礎資料
(日本語版)



統一的な基礎資料
(英語版)

- 「放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター」では、放射線の健康影響に不安を持つ福島県内の住民の方を対象に各種相談対応や、専門家派遣、研修会、セミナー等を開催。
- 福島第一原発事故後の放射線の健康影響に係る風評を払拭するため「ぐるプロジェクト」を推進し、全国に向けて情報を発信。



住民セミナー

令和6年4月以降の実績

- 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターでは、福島県内外において放射線の健康影響についての車座意見交換会22回、住民セミナーを181回開催。
- 放射線の健康・遺伝影響に関する誤解や不安をなくすため、広く国民に向けた積極的な広報(ふくしまメッセンジャーズ※による情報発信を含む)のほかに、全国の企業や団体・学校において、放射線の基礎知識や、福島の実状等について学ぶことの出来るセミナーを開催(企業等:延べ320団体1,905名、学校:延べ67校1,048名が参加)。

※ふくしまメッセンジャーズ:“福島は今”を自分たちの視点で全国へ発信するため、福島県に在住・在勤の若者で構成された活動組織。

